

II 特集 「障害法の観点から考える障害年金法のありかた」

創刊号の目玉企画として、

特集「障害法の観点から考える障害年金法のありかた」

を以下の内容にて掲載した。(18頁～184頁)

第一に河野正輝先生(九州大学名誉教授・日本障害法学会代表理事)に本ジャーナル掲載用に発表された特別寄稿(「河野論文」)を掲載、

次に河野正輝先生をお迎えして開催した座談会(2019年10月16日第5回裁判事例検討部会にて)の内容を掲載、

最後に当会代表橋本宏子による河野論文を受けた補論を掲載したものである。

1 特別寄稿 (19～49頁)

「障害者の年金・手当・福祉サービス法における社会参加阻害の要因と展望—障害法の視点から—」

部会での報告を論文として昇華させた、本ジャーナル掲載用に発表された河野教授の書き下ろし特別寄稿(「河野論文」)である。

2 座談会 (50～96頁)

「河野正輝論文についての意見交換」

河野教授ご報告をめぐる当会座談会当日の意見交換の内容である。

「障害年金法研究会 報告レジュメ(2019.10.16)」(97～98頁)は、その際に会場配布された河野教授作成レジュメである。

3 補論 (99～184頁)

「補論 河野論文を受けて 浮かび上がる<近代>への関心—2つの視点を通して「生存権」を考える」 橋本宏子

当会代表橋本による河野論文を受けた「橋本補論」である。